

メモリ型プロセッサによる動画像処理システム RVS-2

5 R-5

— 基本ソフトウェア —

許 昭倫 岡崎信一郎 佐藤 完† 古賀拓也

NEC 情報メディア研究所 †(株)NEC 情報システムズ

1 はじめに

低～中レベル画像処理に有効な1次元 SIMD 型プロセッサアレイのアーキテクチャを有する RVS-2[1] は、その高速性とコンパクト性に大きな特徴を持つ。本稿は RVS-2 の基本ソフトウェア、特にそのシステム記述用高級言語 1DC (One Dimensional C) について述べる。

2 RVS-2 基本ソフトウェアの構成

RVS-2 の基本ソフトウェアは、アセンブラー、デバッガ、シミュレータ、1DC コンパイラとリンク、そして 1DC_C と 2DC_1DC の両トランスレータからなる。全ツールはワークステーション上で動作し、デバッガやシミュレータは X ウィンドウベースのものとなっている(図 3)。高級言語はシステム記述用に 1DC、より高レベルな記述用に 2DC (Two Dimensional C) の2種類の C ライクな言語を有し、1DC は RVS-2 の1次元 SIMD 的な動作を明快に記述できる高級言語として、また 2DC は点集計型演算[2]のもとで記述の簡潔性と簡易性とを追求した汎用の画像処理言語として設計した。なお以下では 1DC についてのみ説明し、2DC は[2]を参照されたい。

3 IMAP システム記述用高級言語 1DC

1DC では RVS-2 のアーキテクチャを考慮し、データ型とは別に宣言時の修飾子の有無により変数に主に common、separate、single の3属性を与え、common 変数をコントローラのデータメモリに、separate 変数を各 PE の同一メモリアドレスに、そして single 変数を特定の1PE にそれぞれ割り付ける。

RVS-2: A Real-Time Vision System based on Integrated Memory Array Processors —System Software—
Sholin Kyo, Shin'ichiro Okazaki, †Kan Sato, Takuya Koga
Information Technology Research Laboratories,
NEC Corporation
†NEC Informatec Systems, Ltd.

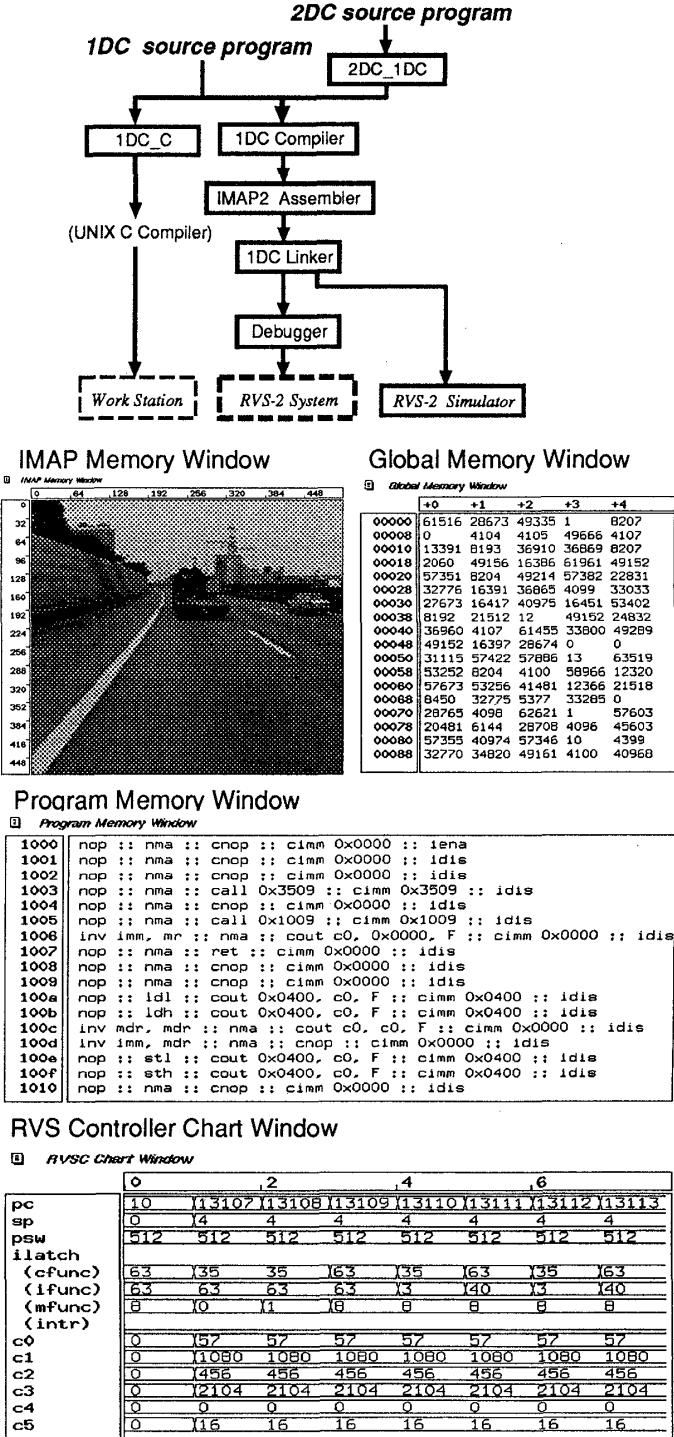


図1: 基本ソフトウェア構成とデバッガの画面

`separate` 変数とは、各 PE 每に異なる値を持ち得る変数である(図 2)。それ以外の変数は、実行時に必要に応じその値が全 PE へ放送される。`separate` 変数及びその配列は常に全 PE によって一齊に処理され、また `align` 修飾子付きで宣言された `separate(変数の)` 配列は、IMAP-2 の間接アドレッシング機能を効率よく利用できるようにメモリのページ境界に配置される。`single` 変数は特定の 1PE 上に存在し、その配列の各要素は通常当該 PE のアドレス方向に順に配置されるが、配列を `spread` 修飾子付きで宣言した場合はその各要素が PE 方向に配置され(図 2)、これに応じコンパイラは前者に対し 1PE による逐次処理、後者に対し要素数だけの PE による並列処理のコードを生成する。

構造文では `mfor` 文や `mif` 文のように頭に `m` がつく複文は、その述語部分の評価結果が真である PE 上でのみ実行され、通常の `for` 文や `if` 文等の複文はコントローラ上で実行される。また一般的な C 言語の演算子以外に、`separate` 変数 `a` をオペランドとする演算子として、`:||a` が全 PE 上の `a` の値の論理 OR、`:<a` が右隣 PE、`:>a` が左隣 PE 上の `a` の値の参照、そして `a:[x:]` が `x` 番目の PE 上の `a` の値の参照を意味する(図 2)。例として 3×3 の平均値フィルタ処理の 1DC 記述を以下に示す。但し IN は外部入力画像、OUT は外部出力画像を格納する `separate` 配列へのポインタとする。

```
average_filter()
{
    separate unsigned char acc;
    common int i, idx;
    for(idx=0; idx<512; idx++){
        for (i=acc=0; i<3; i++) acc += IN[idx+i];
        acc += (:<acc + :>acc);
        OUT[idx] = (acc /= 9);
    }
}
```

4 リアルタイム画像処理プログラムの開発

RVS-2 ではビデオボードからコントローラに、奇数 / 偶数フィールド開始 / 終了、奇数 / 偶数ライン入力終了、の計 6 つのビデオ信号が割込み信号として送られて来る。ユーザ定義のプログラムは、これらの割込み信号によって、フレームごとに繰り返し起動される。なお 1 フレーム時間(33ms)内にユーザプログラムが終了しなかった場合は、その起動を見合すこともできる。

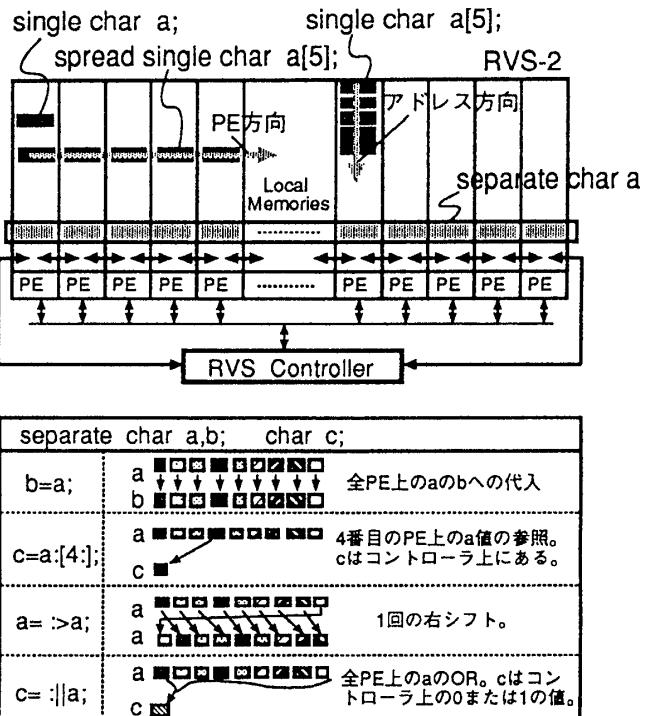


図 2: データのメモリ配置と `separate` 変数の演算

1DC ではこれらのビデオ信号に対応し、計 6 種類の名前の異なる実行開始関数(C 言語の `main` 関数にあたる)を記述でき、それぞれが独立したジョブとして各ビデオ信号に同期して起動される。例えば外部との画像入出力を実現するにはライン入力信号が起動する実行開始関数内に、シフトレジスタ内の 1 行の入力画像データを一齊に所定のメモリ行にストアし、また別の所定のメモリ行のデータを一齊に同シフトレジスタにロードする処理を記述すればよい。コンパイラはコード生成に際し各ジョブ内に適宜の数の割込み可能領域を設けることで、ジョブ実行中に他のビデオ信号の割込みを許可する。

5 おわりに

本稿では主に IMAP のシステム記述用高級言語 1DC、及びそれを用いたリアルタイム画像処理プログラムの開発方法について述べた。こうした高級言語を中心としたプログラミング環境の存在は、今後の RVS-2 の適用分野の拡大に大きく貢献することと思われる。

参考文献

- [1] 岡崎 他、メモリ型プロセッサによる動画像処理システム RVS-2 —システム構成と特徴—、第 49 回情処全大、5R-4 (1994).
- [2] 許、面型画像処理言語の提案 —点集計型演算に基づく並列画像処理用言語 2DC—、信学技報、CPSY94-45, pp.33-40 (1994).